

論 文

整形外科疾患患者の褥瘡発生要因 に関する実態調査

丹保まり子・村山美奈子・松本 信子・野村 清美
(公立鶴来総合病院)

The Risk Factors of Pressure Ulcer in Orthopaedics Patients

Mariko Tanbo, Minako Murayama, Nobuko Matumoto, Kiyomi Nomura
(Turugi general hospital)

要 旨

整形外科疾患患者における褥瘡予防ケア基準の作成を目的として、褥瘡発生要因調査を行った。対象を手術を受けないグループと手術を受けたグループに分類し、褥瘡発生群と非発生群で比較検討した。調査は、褥瘡の発生を予測するスケールとして、有効性が報告されている日本語版ブレーデンスケールと、ブレーデンの褥瘡発生要因図から抽出した項目に整形外科疾患患者に特有の項目を加えて行なった。結果、整形外科疾患患者全般に、装具類の圧迫が問題となった。手術を受けない患者では、褥瘡発生要因として骨折部位固定装具の圧迫、ずれ、活動制限による外的因子と浮腫による内的因子が考えられた。手術を受けた患者は、褥瘡発生要因として加齢、痴呆、血清アルブミン値低下が内的因子と考えられ、外的因子としてドレーンの本数が影響すると考えられた。